
貴方が笑うから、世界は回る

山本 蓮季

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

貴方が笑うから、世界は回る

【Nコード】

N3401A

【作者名】

山本 蓮季

【あらすじ】

夢の中でしか会えない。淡くて儂い人。綺麗な目をした、私の死神。

暗く静かな闇が、小さな火に照らされて白く濁る。

暖かな光に照らされた先には、彼が居た。淡く微笑んでいる彼は、綺麗な目をしていた。

綺麗な灰色。灰色の目が、鉛色に鈍く光を反射する。

彼は、子供の様に残酷な笑みを浮かべていた。

「漣」

そつと近づいてきた彼が、目の前に傳く。

そして、そつと私の手をとって、手の甲に、唇を押し当てた。

柔らかい温もりが、白い手を暖める。

「沙羅、久しぶりね、何日ぶりかしら？」

彼の黒く長い髪が手にさらさらと当たり、心地よかった。

「……漣、愛してる」

少年のような、あどけなさを帯びた声が、鼓膜を振るわせる。

姿は、青年なのに。幼く感じられる。

「私も」

私は彼の耳に軽く口付けする。

「ありがとう」

甘く、紳士的に、しかし確実に、彼は私の心に忍び寄っている。

そして、いつか『喰らう』。

それを宿命としても、私たちは愛し合っている。例え、人種が違っても。

「どうして、夢なの……？」

切なさ、零れた。

* * *

目覚めたとき、私の頬には涙が伝っていた。

沙羅の夢を見るようになったのは、いつからだろう。

沙羅がいる世界は、輝いて見えた。

そして、沙羅の夢を観るその度に私は、夜の住人になることを願う。

「……………沙羅」

沙羅のあの綺麗な目が、脳裏にこびり付いて離れない。

淡く光る灰色の目。死者を狩る、悲しくも美しい人。

私が夢に目覚めるから、貴方が存在する。

貴方が笑っているから、世界が回る。

運命共同体。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3401a/>

貴方が笑うから、世界は回る

2010年12月30日09時57分発行